

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
15104	3	後期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	応用臨床医学Ⅲ (Applied Clinical Medicine Ⅲ)				
担当教員名	井上 肇				
授業の概要及び到達目標					
<p>○診療情報管理士の業務を行うために必要な基礎医学の知識を復習し、診療情報管理士認定試験に対応できる応用力を習得することが本科目の目標である。</p> <p>○講義では「体の仕組みと働き」で学習した内容の復習を行いつつ、認定試験を意識した演習問題を繰り返し、知識の定着を図る。</p>					
準備学習等					
<p>○ 基本的には応用臨床医学Ⅰに準ずる。</p> <p>○ 本講義は予習を必要としない。復習あるのみである。</p> <p>○ 休み時間の5分、通学時の電車待ち時間5分などを利用し、隙間勉強を習慣づけること。</p> <p>○ 本講義は、限られた時間の中で日本病院会が指定する診療報酬管理士用教材のすべてを網羅する必要がある。</p> <p>○ 当該教科書は全12章から成り立つため、ほぼ1日(2時限)の講義で1章分を終了する割合で重要事項を講義する。そのため、細かな疾病については自学・自習が必要である。</p> <p>○ 平行して、講義時間中に日本病院会の指定する演習問題集(全1200問)から、優先すべき重要設問を選択し指定する(約700問)。これらを各自が講義ならびに教科書を参考にして、自宅演習を行う事が前提となる。</p> <p>○ 全1200問と言っても一日15問ずつ演習すれば、80日で完了する。誤答した問題のみを再度見直す(2回目)。さらに誤答した問題を見直す。すなわち3回繰り返す事を目標とする。これが合格の秘訣である。</p> <p>○ 2年次の講義であるため、管理士試験までには1年の余裕があるが、この空白の1年の努力が合否を左右することを忘れてはならない。</p>					
成績評価の方法	○レポートで評価する。この各自の提出レポートは、管理士試験用の自己参考書になる。当教科の成績の良し悪しで一喜一憂する必要はない。目標はあくまで管理士認定試験の合格であり、レポートの良し悪しが決定する。				
テキスト	○ 日本病院会編 診療情報管理Ⅰ(基礎医学) ○ 日本病院会編 診療情報管理教育問題集				
参考図書	○ 新医療秘書医学シリーズ全6巻 (建帛社)				

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最初は演習問題が出来なくて当然です。だからダメだとは思わない事。</li> <li>○ 認定試験は演習問題から出題されるので、コツコツと演習問題を解く事が合格の一番の近道です。</li> <li>○ とにかく問題を繰り返し解答すること。目標は3回反復です。</li> <li>○ 講義関連、学生生活（就職、健康等々）等随時質問、相談受付致します。</li> <li>○ 非常勤故、不在時にはメールならびに電話等で対応致します。（講義時にアドレス、電話番号を公開します）</li> <li>○ 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>
授 業 計 画	
第 1 回（1～2 時限）	4 章 寄生虫症
第 2 回（3～4 時限）	5 章 新生物
第 3 回（5～6 時限）	6 章 血液・代謝・内分泌
第 4 回（7～8 時限）	7 章 精神・脳神経・感覚器
第 5 回（9～10 時限）	8 章 消化器系
第 6 回（11～12 時限）	9 章 泌尿器系、10 章 周産期 一部
第 7 回（13～14 時限）	10 章 周産期 残り 11 章 皮膚・筋骨格系 一部
第 8 回（15 時限）	11 章 皮膚・筋骨格系 残り
<p>講義では基本的な内容を整理するが、その範囲だけでは認定試験対策の学習としては不十分である。</p> <p>あくまで教育問題集を解くための導入的な講義なので、毎日各自で問題集を解いて（復習して）理解を深めることが重要である。</p> <p>なお、問題集は最初出来なくて当然であるが、当然であるからと言って最初から答えを見たり、安易に教科書を開く事無いように。自分の実力で解答する努力をする事。その後に、答え合わせを行いながら、解答を記入する事を厳守する事。</p> <p>応用臨床医学 I と当講義（応用臨床医学 III）で、教科書一冊が完了である。この 2 教科の講義を参考に、3 年次の 1 年間を通じてコツコツと演習問題集をさらに 3 回解答をし直すこと。</p>	